

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-120	14-070	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Alcohol consumption and physical functioning among middle-aged and older adults in Central and Eastern Europe: Results from the HAPIEE study. 中東ヨーロッパにおける中高年層での飲酒量と身体機能の関係： HAPIEE 研究より		
<b>執筆者</b> Hu Y, Pikhart H, Malyutina S, Pajak A, Kubinova R, Nikitin Y, Peasey A, Marmot M, Bobak M.		
<b>掲載誌</b> Age Ageing. 2014 Jun 30. doi:pil: afu083.		
<b>キーワード</b> 飲酒、高齢者、身体機能、中東ヨーロッパ、横断研究		<b>PMID</b> 24982097
<b>要 旨</b> <b>目的：</b> 中高年の適度の飲酒は身体的制約のリスク低減と関連するとされている。本研究では中東ヨーロッパにおいて飲酒量と身体的制約の関係について検証する。 <b>方法：</b> ノヴォシビルスク（ロシア）、クラクフ（ポーランド）、チェコ共和国においてランダムに選ばれた、45歳から69歳の28,783人を対象として横断研究を行った。身体機能についての質問票によってスケール化し、最適な状態の75%未満を身体的制約と定義した。飲酒に関しては段階的飲酒頻度によって評価し、問題飲酒はCAGEによって2つ以上の肯定解答が見られた場合と定義した。 <b>結果：</b> 身体的制約のオッズは非飲酒集団で最も高く、飲酒頻度、年間飲酒量、平均飲酒量の上昇に伴って低下し、問題飲酒とは関連が見られなかった。非飲酒者と適度の飲酒者との身体的制約の調整オッズ比は1.61(95%信頼区間=1.48-1.75)であった。過去の飲酒状況が確認できたロシアでのデータによると、健康上の理由から禁酒した集団と飲酒を継続している集団との調整オッズ比は3.19(95%信頼区間=2.58-3.95)であり、継続した禁酒者、健康上の問題以外での禁酒者、飲酒量を減量した人の集団の調整オッズ比はそれぞれ1.27(95%信頼区間=1.02-1.57), 1.48(95%信頼区間=1.18-1.85), 2.40(95%信頼区間=2.05-2.81)であった。 <b>結論：</b> 本研究では、飲酒量と身体的制約との間に逆相関が認められた。非飲酒者での身体的制約の高オッズは、過去に飲酒をしていて禁酒した集団の健康不良による影響と考えられた。また大量飲酒集団において、見かけ上身体機能が良いのは、かつての大量飲酒者が適量飲酒の集団に移ったことが要因のひとつと考えられた。		